

令和5年度の学年担当制の教室と授業について

今年度の岩倉北のチーム担当制は、学級担当をやめて学年担当制に切り替えます。これで、チーム担任制の完全導入になります。昨年度までの学級担当、それ以前の学級担任のイメージが残っているかもしれませんが、学年担当への切り替えは、チーム担任制のセカンドステージとして、大きな分岐点になります。4月は、従来の学級担当・学級担任のイメージの払しょくをお願いします。

すでに、チーム担任・学年担当の教室や授業について各チームで相談をしてもらっているところですが、以下の点について留意してください。

①学年担当が1クラス固定となり、従来の学級担任や学級担当的にならない

学校都合、学年担当都合で、これを行って行くと、従来の学級担任や学級担当と全く変わらないようになるので、通年の学級固定は行わないようにしてください。責任や担当の所在を明確にする、持ち授業設定や評価の効率面からの判断があるかもしれませんが、通年化することで「隣のクラス」が確実に存在・意識することにつながります。岩倉北のチーム担任制は、「隣のクラスをつくらない」が合言葉です。

②1学級固定の授業を通年で言い、学級担任や学級担当的にならない

これも、①と同じ考え方です。例えば、交換授業や教科担当だけが入替わり、それ以外の授業は年間通して同じ学年担当が同じ学級をもつということは避けてください。評価面での効率化という視点では、その方が時間短縮につながるかもしれませんが、チーム担任制はそもそも、児童の多面的な理解と多様な関わりをメリットとしているシステムです。また、客観的な評価を行うという目的からも、一人の教員による主観評価を避けるというメリットがあります。

③学年担当、チーム担任内で学級割当を行わない

①②の続きのポイントです。学年担当、チーム担任制ではあるが、学級担当を決めてしまうと、分業制となり、これまでと変わらないシステムになってしまいます。表面上のチーム担任制ほど無意味なものはありません。名簿管理や文書配布等の事務的な部分での分担・分業は効率面でよい工夫だと思いますが、①②のような授業分担、また、生徒指導や保護者対応の学級担当制は行わないようにしてください。

ただし、担当や窓口を決めることは、個別の信頼関係を構築するために必要です。例えば、A児やその保護者の主の担当（窓口）を固定することは保護者にとっても安心につながると思います。窓口ですので、責任ではありません。チームで対応するというチーム担任制の基本は変わりません。

の3点についてチーム内・学年内での共通理解をお願いします。

学級担当的な固定をしないということは、通年での固定をしないということであり、毎日や毎週学級担当を入れ替わるということではありません。月ごとや学期ごとに意図的・

計画的に入れ替わりを行い、学級担任や学級担当がいるのではなく、学年担当・チーム担任制であることを児童・保護者に見てわかるようにしていくものです。そして、教員自身も学級を固定しないことで「隣のクラスをつくらない」が形として理解できると思います。

実際の教室づくりですが、教室の荷物を入替わりごとに移動することは不要です。荷物置場としての教室の固定はOKです。教室の机は共用となるので、チーム内で共用基準を定めてください。面倒なしばりを示しましたが、学級担当を固定化すると、生徒指導や保護者対応にも影響がありますし、計画年休の取得も学級負担になってしまいます。

従来の学級担任制や昨年度の学級担当制とは、きっぱりと離別して、全く新しい学年担当とチーム担任制をつくっていきましょう。